

西洋道中膝栗毛

六編
下



元あつぬダてめくッちのやうな草場よなるにされ
 るお八さんおやア縁入の工このとらうへんがくめ入
 借アニあんごといげ入よままのまのあなるの我等
 年サアとらうくおもて中からつし出りやア十方
 もねくたぬきをまやぢだアの羊わりごアのとあ
 んちうごまのラつてだエうらア百姓おさうい
 めくけんどおのまや羊わりおやアごさんねくぞ
 在折ハサあめんごえあさうろ親人の代まおや

ア二十六ヶ村の惣代名をサアつとめくおがら
 だア産サアぶんぬくねく先祖をたぐねてえせ入
 法性寺ののたあの園白大政右神宮と云ちや
 アあつて入ねくつら法性寺ののたあの園をく
 だらせう右神宮と云の池末孫と在江中將
 慶系の刻年あそんさぬうらアそ六十一代お針
 がりの惣お家村内の席がうらとく小家の屋
 お送りの速いのうさるる南宮帯カ地張のあゆし

サアろひく家重代のおん室あやア平親と情
 糸の鎌足公が徳軍の中ろろごらごらごら
 子からか捕のじつ油つちと源の右衛門さぬが
 鬼が徳から持海らあやつこの日本一のおろろの
 鏡のヨ所持してらぬりく家の持よ紙紙を
 へしてサアつじくをく蕎麦でござるぞかぬ
 等のやうな素町人たアとけがちがうでござる
 ぞろつつらあへエン北十、あんどごとかまきあめのは

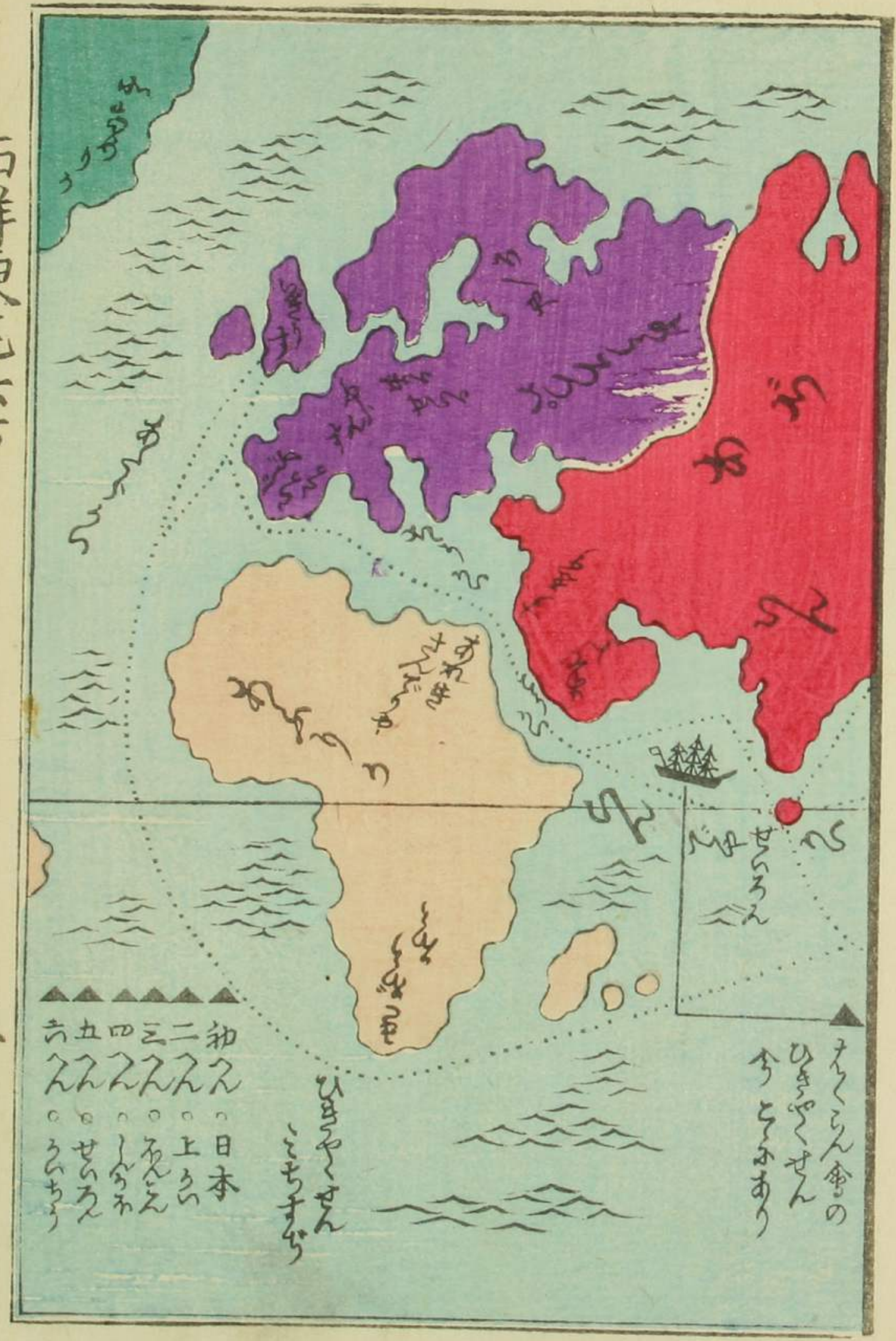
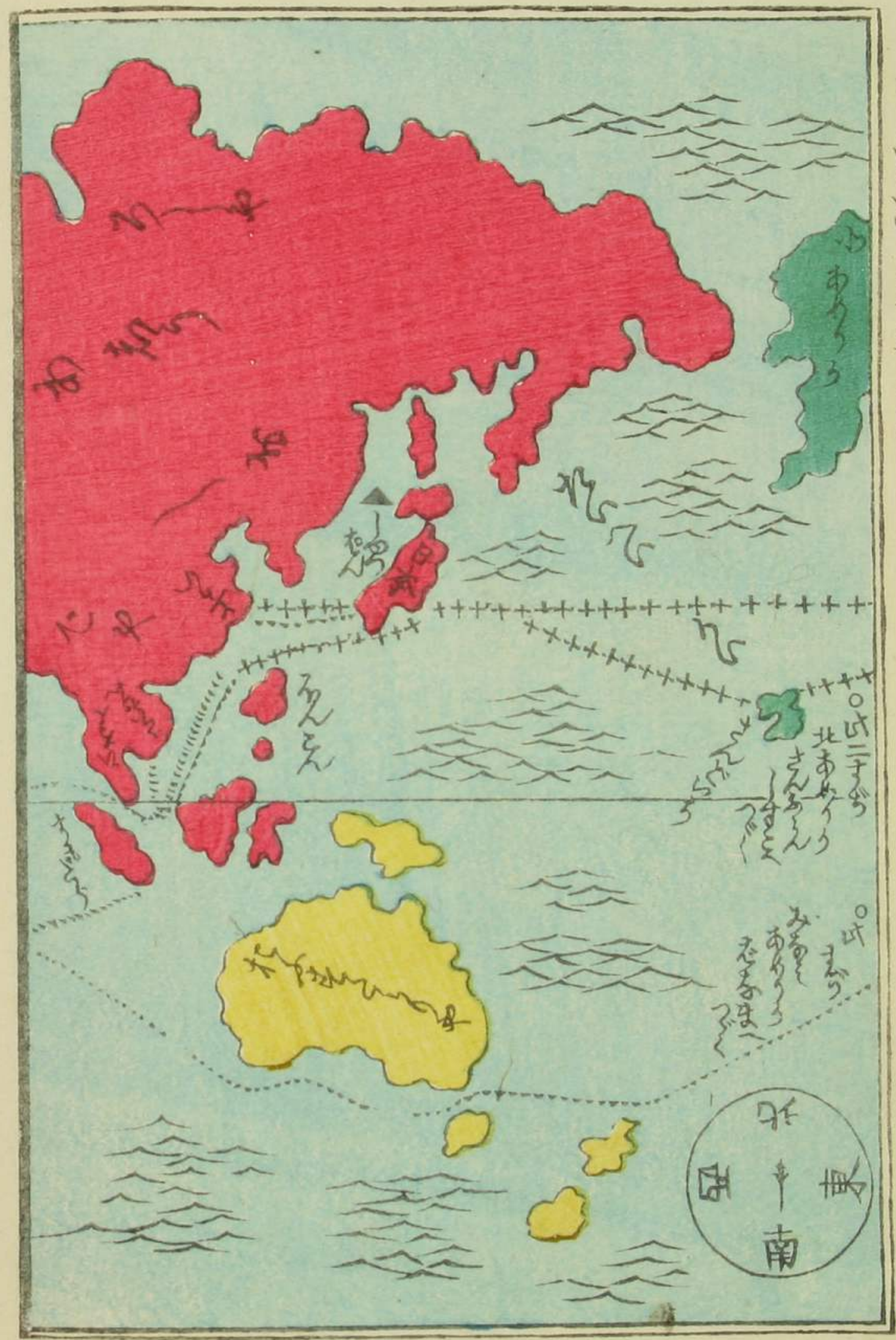
平が移つようされのやうふらつらぬい紙紙を
 つまやアがつくうぬが六百姓をまのふの概に
 さらべあびく世界第一のあ系子を素町人
 だとぬうあやアがつくうぬが六百姓をまのふの概に
 が禁物なる近く作田の八丁堀をあ系の水を
 産湯ふあびてギヤツとらぬれるとおんを日
 からうさ紙を席どんのまぐる海をあをだち
 あをだちとヨらろはは入とのまあらひとじあ

江戸番の番に先生が著ありしで田書み終の
 考の傍から八算見一の十考懸の関平やうぐ
 えむらたあげ七月落からまぐ帰く目ぐあやア
 どんびが花とりふ千字文の文句ハ大派権ふお
 あまごし活花ハ新号連とたみやの一葉
 と兄弟ぶんるハ茶煎の秘傳をうける半を
 藤前の目のおが定海名秘傳とまらやアふ
 伏井戸の廣瀬のた場と今半若とらりは

るのぞ強いたるりう風雅のともらハヨ本終あら
 茶研場の由清やかやを町の文雄が柿本の
 精丸と紫のシ又天照ぶりの程家の徳せりん
 がらみ借金とや貸店の心をやららげら
 もたびくぐら女習屋を伯父あふめりて
 あらびあやア強筆を湯あふつらうくあへぬけ
 のく男とららまらめんぐらと新傳系と
 昔あらうぐあららんの鞠當まらだ柳橋志やア

西洋夷毛六下

コ



藝者のひつちの風お川でも新者でも根津板橋
 小塚千住五國のあらび茶屋から海軍の裏
 山矢場ふ茶屋世の新選年増あつてひけ
 ばあつてひつちの風お川でも新者でも根津
 板橋のれと女除の守護れ
 は是から出るサ色男あひあひあひあひ
 らあつてひつちの風お川でも新者でも根津
 板橋のれと女除の守護れ
 若芳のまらがるあつてひけ

中るを老ぶれよめあけちのんけぢらめをくら
 っくあたりの小法師だるまふあわしがあ
 めのうだれごとあつてひつちの風お川でも
 新者でも根津板橋のれと女除の守護れ
 お八休よウひつちの風お川でも新者でも
 根津板橋のれと女除の守護れ
 通あふサあめらがあつてひつちの風お川
 でも新者でも根津板橋のれと女除の守護れ
 っトをぶつて選級ヨ北そんなあらそつとをわく

昔々くわむぶらふあらうあのをげあたまふ
 志やぶのまけるみアうとらだうらあ仲ふ
 あつく志やぶつたのぐあつたら満イとらを
 減らしたぜ 蘇アうくく志やぶと志
 ったけれとてあ人の志やぶのつらら沙たの蟹
 をるるやうふはから池をあらう目まふら
 だりあつりまるやうまが梅拵があくびを
 まるやうで妙ふあんぶだうらる物志あうら

だまッて志やぶとじくまひたのこ 北アんの西
 なくも移入ア 咽々乾イてたまらぬ入通きん
 をるりだぐあ人の傍のフラスコをとッて
 だい 通ラットお安イ池菊だぐあくと作してから
 ときく 北アチヨツらぬはし又南系よあやま
 うく 葉ひよりのウエト 志やぶくくふびを
 吸壳の火攻をふせぐおのま
 たち切られたる云葉錢ひ

跡に彫りこれをきくより

年々の珍みぐるはよらみあ

いさひされく汗よある

通一ノ下戦車片対イたらせふ志づらふあり

やしたるの大洋もをさやうだらうチト著述

あてもかたらうか通一ノ通さんあめく世にあん

だうとわくおいてあうづ作でもまきもの通一ノ二

サ十日の船海を余りのはれぐふたかぬ

ひとり日づらじの祝ふむらひサるよあのみと

あごごを日記のまふあつくれがせゆぐか

めくがが邪をまきものあやあうこそもの

らるいられだ北あんどらあじみらうごをうて

あらる子隆之つてあむひあうはッ首隆徳の作

習う通一あふサ日づらじの祝ごとらうら右田道

瀧山吹茶紙とり外駈だらう通一ツト番村

の戯作若葉の颯ふ傲ふ安ッあ著述ふ有ぞ

SALIKEM

西洋紀元千八百七十一年春改正
一名 五洋之真都

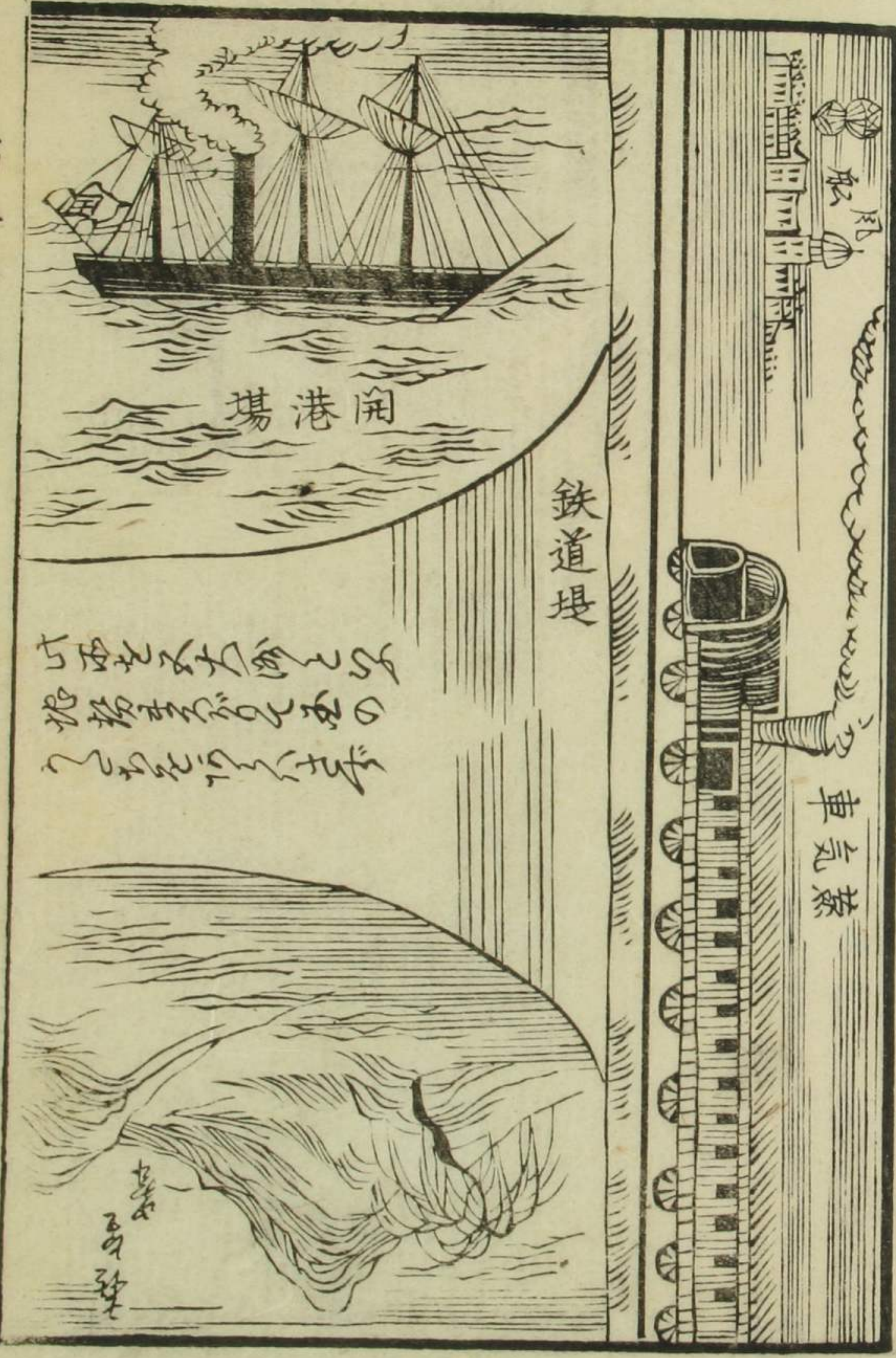
奥地原
勢
権
記



五洋之真都

け二三日ボツク 草稿をつけくあらる修が趣
向をけんじあくと くだららのところのうらやうり下夕かきを
ハア奥地系勢権記一名五洋之真都 権とい
つんとんぶ新報向ダヲヤ扉から席文をあらと
圓への工風分妙さうり

○作者曰これより朱之葉の通治所が著
述の草稿にして孫治所が八等彼かたさし
そを小探して済める所のむらと知るべし

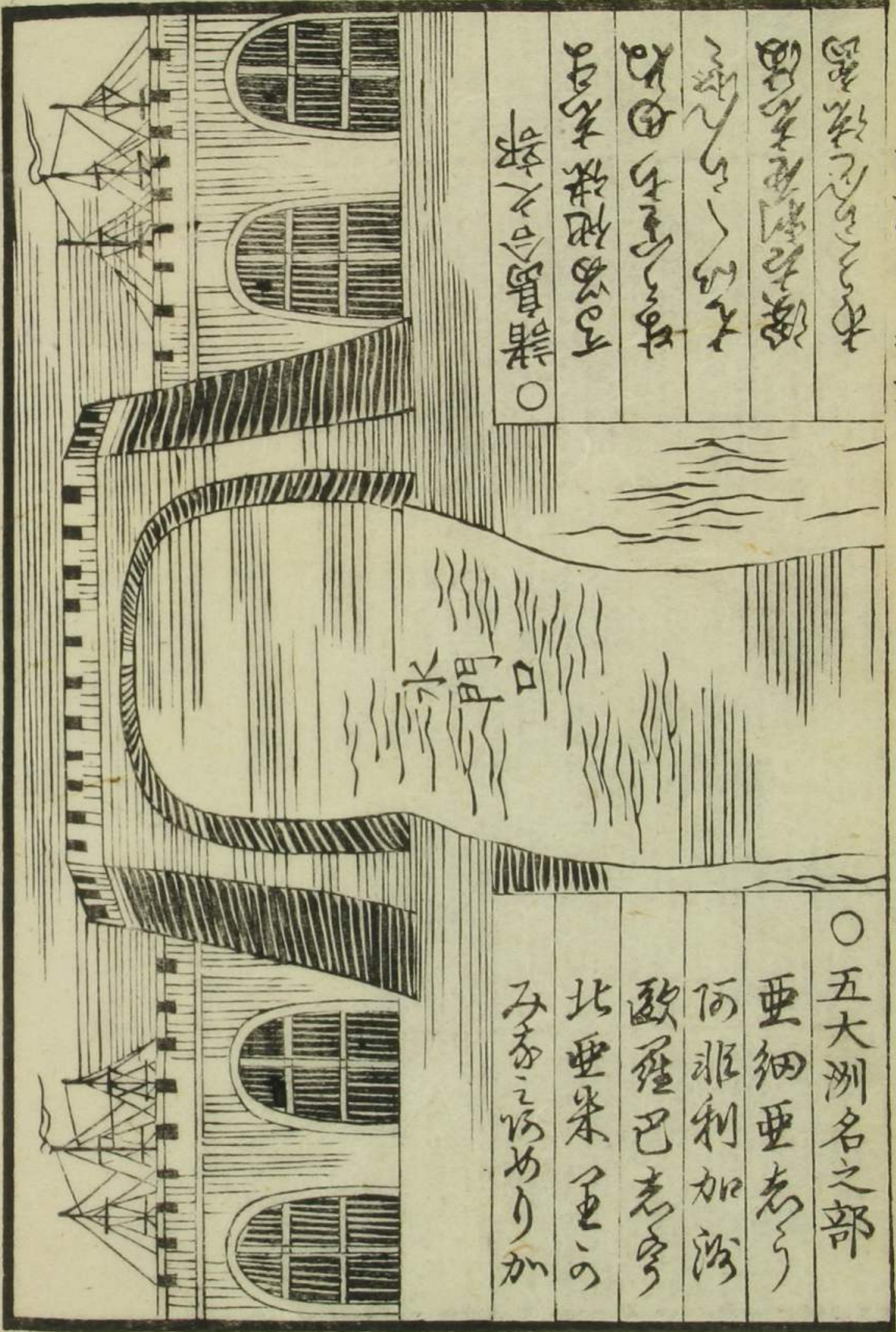


○當代全國位附合印平等之定

首長 王地	屬國 王地	新教附 王君 政主	新教附 政共 治和	新教附 全一 統	帝國 全一 統
黑人部 屋	商館 屋敷	水夫部 屋	船將 座敷	新教附 國支 王	新教附 國支 王
十二 字	十九 字	八 字	七 字	六 字	五 字
九 ツ	四 ツ	五 ツ	六 ツ	七 ツ	八 ツ
時 半	時 半	時 半	時 半	時 半	時 半
年中用具時計等					
一 大國王 二 王侯 三 勳爵 四 伯爵 五 子爵 六 男爵 七 貴族 八 紳士 九 士族 十 平民 十一 農夫 十二 工匠					

○諸島之部
北亞米重之
歐羅巴志之
阿非利加志
亞細亞志之

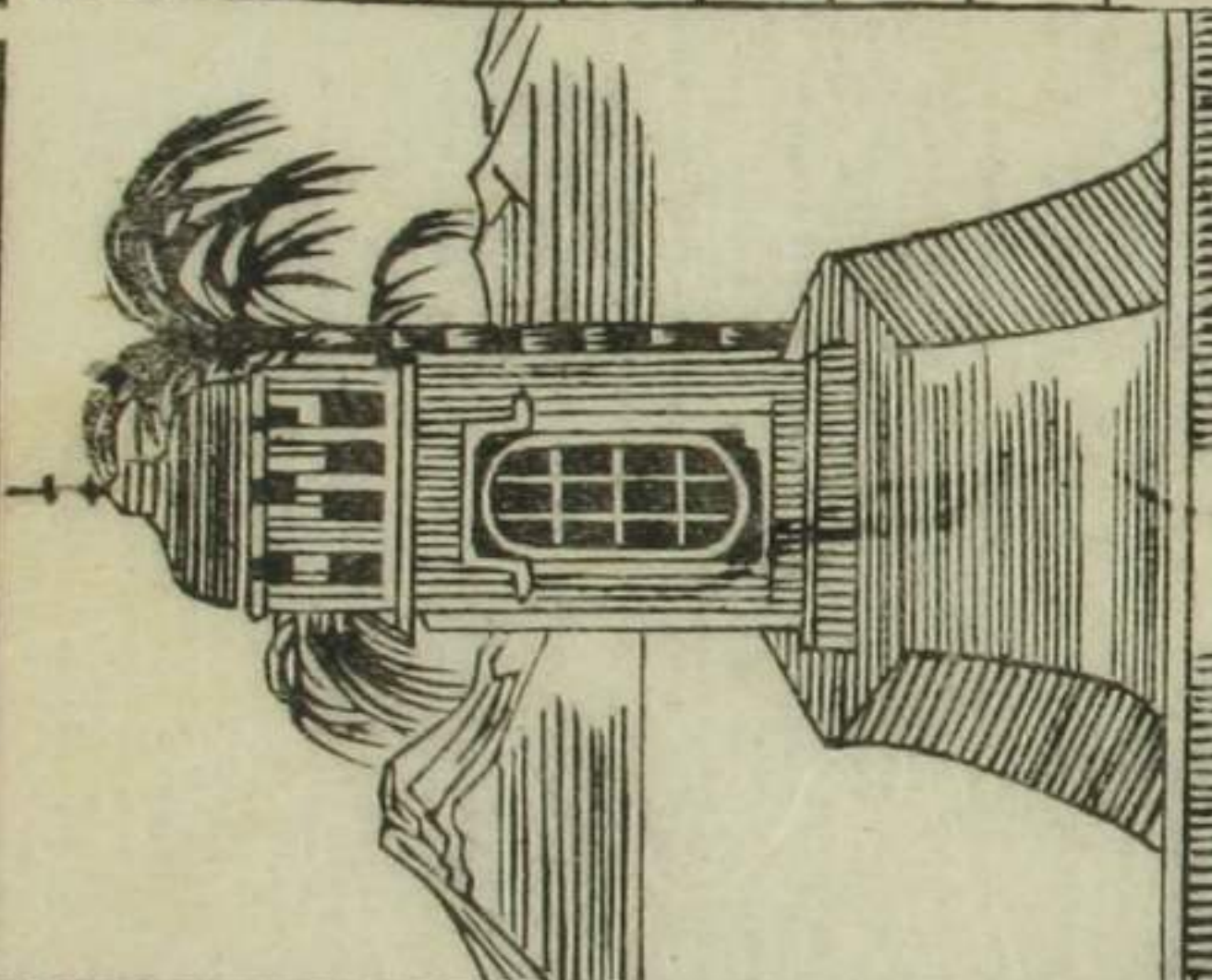
○諸島之部



○五大洲名之部
亞細亞志之
阿非利加志
歐羅巴志之
北亞米重之
南亞米重之

○英國屬島之部
暹羅志之
爪哇志之
日本志之
加里曼丹志之
新加坡志之
檳榔嶼志之
英屬荷屬領
英屬領

暹羅
爪哇
日本
加里曼丹
新加坡
檳榔嶼
英屬荷屬領
英屬領



暹羅
爪哇
日本
加里曼丹
新加坡
檳榔嶼
英屬荷屬領
英屬領

西洋東毛六下

五大洲海峽

東 蒙古 嘉嘉 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 <small>蒙古 嘉嘉 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國</small>			
蒙古 嘉嘉 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 <small>蒙古 嘉嘉 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國</small>			
西 嘉嘉 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 <small>嘉嘉 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國</small>		南 嘉嘉 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 <small>嘉嘉 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國</small>	
北 嘉嘉 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 <small>嘉嘉 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國</small>		東 嘉嘉 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 <small>嘉嘉 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國 俄國</small>	

○亞細屋東西門

表第基塔希滿連邦順阿葉拉
 加希拉布加都西哥花瓦南薩

おせろかま
 くんくろん

輿地原勢權五洋真都序

我北方の一廓五町ハ。則ち壺中の一地球彼の五大洲
 を是より北せむ。日本堤ハ支那の萬里の長城締りの
 大門。紅河ハ化粧の鍍醬水溝。中華ハ花の仲の町浮れ
 て有頂印度領。フランスイギリスフロイスの洋語ハ曲輪
 の記りに似て。阿意蘭道中ハ文字放つ心の駒下駄ハ
 十字踏出と音の音全盛界の君達を真都乃位の
 品定めモシエ一寸マア御覽なまりと云再個ハ

千八百七十一年春

通辭樓英語撰述

西洋東毛六下

十一

通^トどろだエ中^{ナカ}らざると志^{ココロ}ととろろんおりのサ
 チト流^{ナガ}りをこれをしやうだう古人^{コノコト}と馬^{ウマ}を
 溜^トす入^イの趣^{オモ}向^ウだらう 北^{キタ}さんむをあんて
 やア大^{ダイ}席^{セキ}ニツ目^メグすんぞ之^{コノ}目^メだヨ荒^{アラ}本^{ホン}戸^ド
 から聲^{コエ}接^{ツギ}當^{アタ}て一^{ヒト}幕^{マク}のどのお出^デみせ
 エモシたつる今^{イマ}めこむかりサ通^トすくうせ入^イ合^カ將^{ショウ}
 だかつをといふおのそとて かつをと云^{イハ}や河^カ童^{ドウ}を
 附^ツての妙^{ミウ}案^{アン}ありサ 経^{キョウ}かつをふつてその妙^{ミウ}案^{アン}あり

お練^{マシ}ひとり響^{ヒビ}古^コとぞもいふお影^{カゲ}通^トせん
 お身^ミはるお影^{カゲ}ふあらど海^{ウミ}浜^{ハマ}氏の窮^{キウ}理^リ圖^ト解^ゲ
 を懸^{ケン}案^{アン}しし標^{ヒラシ}目^メがやぶおダ

虚^{ウソ}誕^{タン} 八百
 河^カ童^{ドウ}平^{ヘイ}凡^{ボウ}胡^コ瓜^カ圖^ト解^ゲ
 名^ナ 絲^シ瓜^カの皮^カ

北^{キタ}さんむら知らぬが野^ヤ菜^{サイ}家^カの店^{タナ}ざらし
 をするやうお影^{カゲ}だせ通^トところが大^{ダイ}趣^{オモ}向^ウサ於^オ
 て造^{ゾウ}化^カの工^{コウ}を足^{ソク}破^ハしく天^{テン}地^チの乃^ノ理^リを茶^{チャ}よる

成作サ北へだうりて南にガ屋茹ふだらう通
 コレサく一君嶼さぶよとの草稿を續よこさぐえ
 めせくコリヤアまのあん寢ちだらう弥ヲヤ亦ゴ
 けり若かけてあるのうそト二三枚かまきこのりまをなふた
て中支の初をよむとある

雑談

安愚樂鍋

一名奴論建

第一章

書生の醉話

○年齢ハ二十一二位の書生女個牛肉店一の西小
 ころぬのまゝあぐらをかき持参のビールハ痰よかむけ

フラスコの徳利をかゝらりとらどじ地まりの水ッ
 びのさけをさうりあさくしと牛あぐのかりりお生あまの
 から血ちが二枚をうり出とく大辨の鍋あぐのうらひ正肉まの
 喰くつじさみさ切きの葱ねぎがたれ味増あじと合俵あひらしてある
 小沸あるみかんみかん天てんの如ごとくまろまろ業や羅らをとりよせとく
 湯あをさじとゆゆをさぐあることあり○ひよりのかんざりあり
まぐいハ文のありありのたまうつこ袖付たもとけとらうれがねあることニサト半はんあり
ある小袖こそでよ小舎こやの身み房ふすちのトこまきとらうまをけをびのうりよまき
網あみの自由じゆうニ置ますうりのあじをさじろのうらめとあやうあやうハむきさびさげとらう
刀やいばのつらとさびうりたるをさうゆめんささうささうハまじさやのあぐまにさしたる
ところをすまてぬりかつらう人あま英えい格かくせんをさうのちしてまがくトウと
あからしてさうあるだまをさうのあはりのあはりよあぐまのうら

せんくをくらひをびやうを ○ 今ひとりの
 たしくとせありとあるべし
 あらゆるものほそくをくものまうめてあるたに
 のやうふ自分やめてむまびりともくむらさた
 ありのあららるるたるがごはばのまのよ
 だらりとさうりらうのめんのてんつるせん
 あらうさんばせんせんといふやうな
 まらうのまのよやのちあひあ
 定のんをユウとさうさうまよ
 つまむらさたさうの
 ひと入のぶさた
 ねをりをねのて
 かごりら入するめて
 を死小うらの
 たらぬのひさ
 たらぬのかり
 たるをあらた
 てあるあま



ぶろく
 むめ
 中へかからからから
 ぶびをのちりまはて
 目をねむってくらをあらたれの
 さんきうのつさあわて南かまん
 くらつればしおさへひま
 とはとあるやを特をきん
 一報報をえのる
 ことわり一併この
 書まの漢字者流
 ありじがもちこころ西洋
 字やまうらうの東かのせんきり
 と同考めくおりのたるものところ
 のまごわんやくののたんといふまは
 ろいまるあひあつれのせんきりまは
 英悟まつつものごらぬあめりてくそら
 七ありありのつともまらあがらよわどまひが



次江

中もろなる せん 下たのさんどらんけん。君ママ かた 室探たぬ
 僕ハモウらんく せん 下たの せん 敬ダマ せん 下たの せん 受探
 志たす入コレ せん 敬を せん 噴まるの せん 下たの せん 下たの せん 下
 快く せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下
 道が せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下
 あら僕が せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下
日やう日倍ふ 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下
 らいと。人 せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下
そつ 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下
茶 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下

あら不見 せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下
 那刺 せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下
 字を せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下
 まる せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下
 一合 せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下
 を せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下
 横 せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下
 印 せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下
 本 せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下たの せん 下

めづりと船橋の... くらわね草はさきさき... 名可が...
 あつた口接ひ... 今夜中樓さるこさんど目... 提田の
 これも知こよあらぬぐなるん... 金久「名可」...
 喜ハエ... どうもあらん... 作の掛もふさがりろ子...
 論く「史志やアらつと小指ふいどうだらう...」
 佳身だど茶店舟板の... ちりけるあいたのらんあるが
 ふりて二糸妓を一分兼とさるのもマグ子ツトが持サ子
 どで後海の有名を突だまぐ入廊の上後定と
 べーせん... ラウライト。ライト... 倉村だく...

十かん... 西洋...

らん... 珠のれ... ねぐみ... から大... こと... 五太... の王と
 ある... ウ... の... せ... 西洋... やぐて... の
 改... と... ウ... 雲... 山... ア具... 越... 水天... 髻... 青...
 髪... 萬里舟... を泊... 天草の洋...
 り... 東... カ... 車... 車... 車... 車...
 糸... 経... ころ... の... 穿... たら... 日... 本... け... 人... たら...

石町の道後園あでもと持せむせ入潤美いむる
 とらまるから通^アアいむせ入あよと世の中の穿^あ
 ちあら今^今時の裁^裁作者ともあやア美似いできあけ
 修の手際を控^てく^ままのい家身あぐら室の持^ちぎれ
 たと心^このく^くおる^お裁^裁作者あんどよ意^こ通^こを^つ費^らしちや
 ア大業の傍^たげ^いよあるからう^うツちやツとま^まくのごせ
 此^此に^にそ^そ一^一養^や和^わとま^まごよ傍^は長^ち坊^ぼあ^あま^まに^にま^まツ^ツくら。
 くら^らは^は夫^ふ物^ぶ香^かあ^あれ^れ何^なのか^かう^うの^のり^り今^いだ^だ 誦^誦う^うの^のり^りと

らやアモウ^ア三^三品^品に^にあ^あか^かつ^つの^のむ^むせ^せち^ちや^やお^おい^いよ^よる^る
 あるめ^めあ^あん^んご^ごと^とら^らぐ^ぐら^らせ^せ入^い滅^めった^た 此^此に^にア^アや^やあ^あい^い
 由^ゆら^らぐ^ぐハ^ハッ^ッた^たの^のう^うあ^あら^らも^も金^{きん}程^ぢす^すま^まや^や阿^あ極^くの^の
 下^{した}谷^やグ^グウ^ウ一^一の^のア^ア 誦^誦か^かう^うの^のい^いお^お入^いう^うま^まん
 此^此に^にア^アッ^ット^ト見^みま^まん^んあ^ある^るご^ごく^く 生^{せい}刺^し借^け七^{しち}ま^まを^をあ^あら^らめ^め
 仍^{しゆ}季^きの中^{ちゆう}へ^へあ^あぬ^ぬッ^ッた^た茶^{ちや}の^の金^{きん}程^ぢの^のふ^ふり^り出^でし^しふ
 ち^ちげ^げ入^いぬ^ぬと^とけ^けハ^ハッ^ッ津^つ被^ひ理^りの^の思^しイ^イま^まあ^あら^らま^まご
 せ^せらん^んあ^あら^らま^まの^の意^い新^{しん}げ^げ入^いよ^よま^まご^ごけ^け



狂勺
早飲の

こが柳也

そのとよけ

重被
西友

供七



弥次郎

北八

そとを 我等 マヤころやアくらがぬけ齒 サアのま のまをのた
 らだアガアラそんなだらわさんが 金米糶 ぐアアと
 ちりくろらぐぬけ齒のうあらてく喰このんで咽
 サアつらめさつたであらむらイヤこれがホンを流し
 のたごくあるぐいぐみ 疎あんぐとそんあらわ
 八のくらくろらぐぬけ齒の金米糶 あま やアあぐぐ
 借ごんのぬけ齒ぐとそわらよくわいんぐと通
 きんころやアどしじからよあららる 通 天宮のあ

靈符 のねく う 世 そんなあいのじりから稀入がら
 かこの皮志やアどうだん 貝 疎 子 かこの皮が
 物 あるあ ののろ志やうだん 志 やアねく レ 志 を がツ
 りト 下 の ま せ 小 や あ つ り 志 り
み の こ ろ を す だ と そ ら 入 通
を さ さ す う の あ ら 入
 のれ 借 ご ん の ぬ け 齒 だ つ た ら う き き た ね く ゲ ツ ク ア
 借 イ ヤ マ タ ね く あ の ま を 登 ま ッ せ 入 と す く ね や ア
 志 ね く の マ 也 若 芳 は あ ら ん ぐ じ ぶ る それ ふ サ ア

西洋書毛

二一

うらアめけの齒を丹練たんれんしてのけて置くからまよまよぬ
 目のヨしこ下谷あごやの石舟いしふねの遠とほサアいつて懸あがられ
 齒をか生う齒ぐしるまとととももくく大おももははくくままら
 たのだアヨちんをよあつちやアまぶまぶいこころろでまま
 りあまねく仕しわわくく返へつつせ入いるるこんこんちちるる様やう
 むめグ強しやうくくササくくここののやアやああれれググかかららじじくくの
 遠とほだだらら勃ふん弁べんああるるせ入いるるままよよくくけ入いせと
 いったととくく後のち入い納なままるるこのこのをを遂さげめめじじよよままるる

あア二交の昔界くせだ通とおライ借か公こうそんあふやまままや
 ア水みづさんさん鹿かの袋ふくろでもあてあてるるておおつつせ入いるる鹿かから
 出でるる齒ぐしををくくままり入いるる糖とうののやアやこれこれググホホンンノノあありりくくままりりで
 ののををららみみののでで 誄しゆアアららくくライライ水みづハハ香か煙えん入いるるああらら
 あんべべののああらら 借からんらんのの西さい向こうくくもも後のち入いるるくくままららるる
 トトああららくくくくままららるるががららままををままははるるててややららくくままららるる
 ああららくくままららるるひひををののままららくくままららるる水みづハハ西さい向こうああらら
 親おやののままららくくままららるるたたららひひババ他たのの人ひとのの
 齒ぐしををかかららりりたたららるる寄よ地ぢののままららるる

西洋要略六

二

跡は席例のでたらめよ

秋ひらり香こそ船のぬきと喰

咽りとはさるるまどりのほしと

船うち鼻とてさめくやどよ船のまゆと地

めがけ西向くと走去けり

西洋道中膝栗毛六編下了

發行

書林

京都三條通柳馬場	堺屋仁兵衛
大坂心齋橋通南久堂寺町	伊丹屋善兵衛
備後町	近江屋平助
安上町	河内屋忠七
尾張名古屋水町三丁目	菱屋藤兵衛
二丁目	菱屋平兵衛
東京日本橋通一丁目	須原屋茂兵衛
二丁目	山賊屋佐兵衛
芝神明前	須原屋新兵衛
△	岡田屋嘉七
△	和泉屋市兵衛
△	和泉屋金右衛門
△	須原屋伊八
△	横山町三丁目
△	浅草茅町二丁目
△	水石町二丁目角

